

2.5 過去の評価結果に対するフォローアップ状況

ここでは、前回の経済協力評価報告書（2002年度版）に掲載された評価結果に対する主なフォローアップ状況について紹介します。外務省では、評価結果をフォローアップするため、外務省経済協力局内に設置されている「ODA評価内部検討会議」において、評価の結果得られた提言への対応策を協議、決定しています。提言の中には、直ちに対応可能なものもあれば、時間をかけて十分な議論を必要とするものもありますが、いずれもODA事業の改善のために貴重な指摘事項となっています。

前回の経済協力評価報告書では、以下の通り、国別評価、援助実施体制評価、特定テーマ評価などの結果が報告されました。これらの評価では、(1)組織・制度面の支援、(2)スキーム間の連携、(3)他ドナー・NGOとの連携、(4)評価手法の確立などが主な提言としてあげられており、外務省では以下(1)～(4)のようなフォローアップを行っています。

前回の経済協力評価報告書（2002年度版）に掲載された評価

- 国別評価：ニカラグア、バングラデシュ、ベトナム
- 援助実施体制評価：タンザニア
- 特定テーマ評価：G I I（人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ）、地球温暖化
- シンクタンク評価：専門家派遣事業、青年海外協力隊事業、草の根無償資金協力、アジア通貨危機支援
- 国際機関との合同評価：外務省とUNDPの合同評価及びセミナー

(1) 組織・制度面の支援

前回の評価では、被援助国における組織的、制度的な能力強化の必要性が指摘され、組織・制度面の支援を行うために政策アドバイザー的な専門家を派遣することが提言されました。例えば、地域的な不均衡を是正するためには広域的な観点からのマスタープランが有効である一方、被援助国ではそのための能力が十分ではないとの指摘がありました。また、整備されたインフラの維持管理に関しては、技術指導や助言を行うためのアドバイザーが必要とされているとの報告もありました。

外務省では、このような提言を受け、広域専門家やシニア・ボランティアを派遣し、政策的なアドバイスを行っています。例えば、バングラデシュでは農村基盤開発や初等教育などの政策アドバイザーを派遣し、政策内容の改善に向けた支援を実施しているほか、ニカラグアでは道路整備の技術移転のためにシニア・ボランティアを派遣しています。

(2) スキーム間の連携

また、ODAを効率的に実施するため、スキーム間の連携を強化すべきとの提言も行われました。例えば、JICA専門家や青年海外協力隊派遣事業と無償資金協力を組み合わせることにより、効果的な案件発掘が可能となることが指摘されました。また、有償資金協力と専門家派遣の連携によりハードとソフトを組み合わせた支援の必要性も指摘されました。

外務省ではこのような提言を受け、青年海外協力隊の派遣前研修において草の根・人間の安全保障無償資金協力のシステムを説明し、案件の発掘を進めているほか、シニア・ボランティアが現地において案件を発掘するなど、この提言に対するフォローアップを実施しています。また、バングラデシュでは、有償資金協力による農村インフラ整備と農村開発専門家を組み合わせた支援を行いました。

(3) 他ドナー、NGOとの連携

また、前回の評価結果では、援助の効果を高めるためには、他の援助機関との連携が重要であるとの指摘がありました。

外務省ではこの提言を受け、関連する他ドナーやNGOとの連携に取り組んでいます。例えば、共通の分野において活動しているドナーやNGOと連携し、被援助国政府の実施機関の能力向上を支援しています。また、連携を強化するため、現地ベースのドナー会合に積極的に参加し、情報収集に努めています。

(4) 評価手法の確立

さらに、これらの評価結果では、評価手法の確立に向けて努力すべきであるとの提言が行われました。例えば、日本の援助政策を包括的に評価する方法は現在その取り組みが始まったばかりであり、また、青年海外協力隊事業についても確立した評価手法はありませんでした。

外務省ではこの提言を受け、評価手法の確立のための調査研究を行っています。また、青年海外協力隊事業については、JICA中期計画の中で、事業評価の導入を明確に示すとともに、現在青年海外協力隊事務局内にタスクフォースを設置し、評価手法及び指標を検討しています。



ユニセフを通じた学用品供与（イラク）